

少しばかり、政治向きの話を書き過ぎました。最近色々な事象で鼻に付くのでついむきになってしまったようです。御容赦を！

小生が住んでいる野火止台上は、関東の古刹である平林寺が存在することや市内を川越街道が貫通していることから明らかなように古くから開かれた地域である。

その証左の一つに、地蔵菩薩信仰の広がりを示す多くの像が残されている。

朝霞市との境界である野火止氷川神社近くの民家の隣には、六地蔵（横町の六地蔵）がある。市内のお寺さんには六地蔵像があつて地域住民の今尚篤き信仰を得ている。（バス通勤する途次には、朝霞市三原には、珍しい六角石柱六面石幢の六道地蔵がある。1871年建立、六つの道の交差点であることから六道の辻に見立て、衆生救済のための六地蔵を建立したもののようである。成増には、「六道の辻」がある。）

「横町の六地蔵」と呼ばれる六地蔵は、旧川越街道を成増方向に向かう右手、野火止氷川神社近くに、見守るが如く年（1732）の（1756）の庚の地蔵菩薩立



川越街道を往来する人々をに置かれている。享保 17 六地蔵、宝暦 6 年申塔、正徳 4 年（1714）像が並んでいる。

六道というすべての衆生の業(ごう)に従って輪廻転生(りんねてんしよう)するという 6 種の世界のことである。すなわち天道、人(にん)(間)道、修羅道、畜生道、餓鬼道、地獄道をいい、このうちとくに畜生道、餓鬼道、地獄道を三悪趣(さんなくしゆ)(三悪道)という。

のは、インドの世界観で、は、死ねばその生(しよう)

修羅道は鬼類の世界でつねに闘戦をくりかえしてやむことがない。畜生道は虫から蛇や竜、鳥獣にいたるまで弱肉強食をくりかえし、竜も畜類であることを説く《竜畜経》があり、牛馬も人間に使役される苦があるという。

日本での地蔵信仰は、摂関体制移行後の浄土教の流行と共に地蔵の仏像も多数作られるようになり、次第に民間でも地蔵信仰が広まってきた。15 世紀末頃からは、六地蔵詣が行われるようになったが、これらとは別に、路傍や町の嶋に石像の六地蔵が安置されるようになり、これらは全国各地にみられ、民間における地蔵信仰(地蔵)の広まりを示している。

地蔵は幽明の境を越えて六道に現れる仏であるので、その連想から、元々そういう境界を守る賽ノ神や道祖神と混同されて道端や墓地の境界に御地蔵様が置かれるようになったものと考えられている。以上のような経緯で、日本では所謂「六地蔵像」が全国至る所に置かれるようになった。

六地蔵は、六道のそれぞれにあつて衆生を救済するという 6 体の地蔵菩薩である。六地蔵の信仰は、中国などには先例がなく、六道思想の発達に刺激されて日本で形成されたものである。六地蔵というのは、六道夫々の世界で仏道に導く役割を担っている仏のことを言い、①檀陀地蔵（地獄）②宝珠地蔵（餓鬼）③宝印地蔵（畜生）④持地地蔵（修羅）⑤除蓋障地蔵（人間）⑥日光地蔵（天）と言う場合と異称の場合もあり一定していないようだが、像容のみではどの地蔵が何に相当するかを判別するのはほぼ不可能であるという。

しかし、日本では死後の世界を六道とするところから、墓地を六道原というところがあり、京都東山の鳥辺野葬場の入口も六道の辻という。即ち、あの世とこの世の境である入り口である六道原の入口や六道の辻には地蔵菩薩または六地蔵が祀られており、衆生を教化すると考えられている。京都鳥辺入り口には、その名もズバリの六道珍皇寺があり、近くに「六道の辻」の石標が立っている。

お地蔵さんは何故、赤い前掛けをしておられるのでしょうか。一説によると、麻疹や疱瘡は子供が罹りやすく昔は死亡率も高かった。それらを齎す疫神を疱瘡神といい、その疫病神は赤い色を嫌うとされていたことから、地域の境界にあって衆生を救済するお地蔵様に、疱瘡除けの赤い前掛けを奉納し、子供の健やかなる成長を祈願したのであると。

(正確なところは不明に付、何方か御教示願えれば幸甚です。)

(参考：新座市の公式 HP、百科事典、各種 HP etc)